

## 令和7年度 第1回 柏市上下水道事業運営審議会

### 1 開催日時

2025年7月23日(水) 14時00分～17時00分

### 2 開催場所

柏市上下水道局庁舎 4階 401・402会議室  
柏市千代田一丁目2番32号

### 3 出席者

#### (1) 委員

落合委員(会長)、堀田副会長(副会長)、谷委員、石井晶子委員、石井一宏委員、  
大川委員、大藪委員、川端委員、裕富委員、山崎委員

#### (2) 事務局

飯田上下水道事業管理者、小川理事、伊藤次長兼給排水課長、須藤総務課長、吉  
田経営企画課長、佐藤料金課長、岩堀水道工務課長、新井下水道工務課長、深山  
施設管理課長 他

### 4 議題

- (1) 柏市上下水道事業ビジョン 理念・基本方針案について
- (2) ウォーターPPP(管路包括委託)について

### 5 報告事項

- (1) 第三水源地給水区域で発生した水圧低下について
- (2) 柏まつりの出展について
- (3) その他

### 6 議事

#### 議題1 柏市上下水道事業ビジョン 理念・基本方針案について

質疑(石井一宏委員)、回答(事務局) 経営企画課

Q. 下水道の有収水量に不明水は含まれているか。

A. 有収水量に不明水は含まれていない。下水道事業に関する計画を立てるときは不明水も含めた水量の予測を行う。有収水量の予測は、料金・使用料収入の将来予測として使用する。

質疑(落合会長)、回答(事務局) 経営企画課

Q. 水道と下水道で水量が違う原因は何か。

A. 水道・下水道共に使用している住民もいれば、一方のみを使用している住民もいるため水量が異なる。

Q. ピークが異なる原因は何か。

A. 水道と下水道で普及率が異なるためである。水道事業において今後の普及はわずかであるが、下水道事業は、水道事業に比べると未普及地域が残っており、今後解消されていくことを想定をしているためピークが異なる。

質疑（佐藤委員（メール））、回答（事務局）経営企画課

Q. 北千葉水道や流域下水道との連携のあり方について、柏市だけで決められるものではないが、だからこそ、県や関係自治体と協力して、広域水道・流域下水道にも貢献していく姿勢は、基本計画の中にしっかりとり入れられるべきだと思う。

A. 局内で検討し、次回の審議会で反映させた施策体系を示す。

質疑（山崎委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 省エネルギー・創エネルギーに当てはまる具体事業は何か。

A. 省エネルギーは電力消費量の少ない機器への更新、創エネルギーは太陽光発電や下水熱の利用などが当てはまる。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 適切な水源保全という施策について、北千葉水道から水を受水していると思うが、県で行う事業を想定しているのか。

A. 今回ビジョンでは、柏市で管理ができる井戸水源の維持管理を想定している。

質疑（大藪委員）、回答（事務局）小川理事

Q. 下水道の整備は、資料に示されている下水道事業計画区域を拡張するということか。

A. 資料に示している事業計画区域が、下水道によって汚水処理を行う計画を立てている区域である。うち90%が整備済みであり、未普及地域はおよそ10%であるため、事業計画区域内の未普及地域への整備を進めるということである。

質疑（川端委員）、回答（事務局）経営企画課，下水道工務課

Q. 上位計画も前回のビジョン策定時から更新されていると考えて良いか。

A. 新しく国が示す方向性も含めて整合を取りながら上下水道ビジョンを作成していく。

Q. 気候変動の影響で浸水被害が増加しているが、予防保全の評価をどのように考えているか。

A. 今回の資料では、予防保全は維持管理を行う中で、壊れる前に点検・修繕を行い被害を防ぐという意味で使用しており、浸水被害を予防するという意味ではない。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）経営企画課

Q. 有収水量の減少を施策体系にどのように反映していく予定か。収入の減少が見込まれる中で、現在と同規模（同範囲）の維持管理を行っていくのか。ダウンサイジングについて検討しているか。優先順位等を決めて事業を実施するのか。

A. 今回ビジョンの計画期間中は水量が増加し、収入の増加が見込まれている時期であるため、必要な事業について優先順位をつけて行っていく。基本方針の「強化、持続、水質・水循環」は、優先すべき順番に並べている。収入が確保できうちに、実施しなくてはならない施策を行っていく。施設の適正規模は、引き続き検討する。

質疑（杉富委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 防災対策は上下水道局だけで行うのか、他部局と協力して行うのか。

A. 防災・減災対策は市長部局や防災安全課などと協力して行うが、ビジョンには上下水道局の取り組みを中心に記載する。

質疑（大藪委員）、回答（事務局）下水道工務課，小川理事

Q. 八潮市の下水道管による道路陥没事故を受け、老朽化対策を実施しているか。

A. 柏市下水道では、予防保全を重要視した老朽化対策を事故発生前から行っている。今後はWPPPの導入も検討し、より効率的に管きよの更新を行っていく。また、上下水共に老朽管路の更新を行っている。下水道はカメラによって管内を確認できるため、補修の必要な管路を調査し対応している。水道は管内を調べることができないため、耐用年数を考慮しながら適宜更新を行っている。

Q. 取り組みを広報等で発信しないのか。

A. ホームページ等で公表している。

質疑（落合会長）、回答（事務局）小川理事

Q. 公表していることが十分に伝わっていないということを仰りたいのではない  
か。

A. 市民の方々に中々届いていない部分があるため、今後も適宜説明を行って  
いく。

意見（石井一宏委員）

県では、八潮市の事故を受けて、国の実施要請に基づき管径が2 m以上で1994  
年以前に設置された下水道管について、現在調査を行っているところである。

質疑（谷委員）回答（事務局）飯田上下水道事業管理者

Q. 理念に“柏”という文字が入っている方が良いのではないか。

A. 候補として挙げた3つの理念のうち2つに“柏”が入っている。御意見として頂戴  
し、今後事務局で検討していく。

質疑（石井一宏委員）回答（事務局）経営企画課

Q. 理念の“インフラ”という単語は一般の人に伝わるのか。

A. 水インフラという単語を選んだ理由は、上下水道を合わせて示す単語として国  
土交通省が使用しているからである。また、理念として語感の良い単語を使用し  
た。

質疑（落合会長）回答（事務局）経営企画課

Q. インフラという単語は最近普及しているので、あえて水インフラという単語を  
使用することで、一般の人の興味を得ることができるという意図もあるのではない  
か。

A. あまり知られていない水インフラという単語を使用することで、説明の時に上  
下水道一体で行っているということも説明できる。強靱という単語とのつながりも  
重視してインフラという単語を使用した。

質疑（落合会長）回答（事務局）経営企画課

Q. 手賀沼の水質保全という施策にはハード面だけではなく、ソフト面も入れるの  
か。

A. 現在予定しているのは合流改善等のハード面であるがソフト面も入れることは  
できる。

#### 意見（杉富委員）

インプット（投入資源）からインパクト（最終目標）までの流れが分かりやすい説明であった。

#### 質疑（谷委員） 回答（事務局） 経営企画課

Q. インパクトありきで検討するのか。

A. インプットとインパクトのバランスを見て、落としどころを探りながら実施すべき取り組みを検討する。

#### 質疑（堀田副会長） 回答（事務局） 経営企画課

Q. 施策の優先順位を整理する予定はあるか。

A. 優先順位を設定し、重要なものを重点施策とする。また、施策により、指標の重要度が異なると考えているので、その部分も整理して、次回以降の審議会で示す。

#### 意見（落合会長）

重要でない施策はないので難しいと思うが、優先順位をつけることが重要である。

### **議題2 WPPPの導入について**

#### 質疑（川端委員） 回答（事務局） 下水道工務課

Q. WPPPの最大の効果は事業期間の短縮だと考えている。費用の適正化はどのように図っているか。

A. 官積算により公表資料を基に費用を算定している。従来発注と同様の積算から予算を設定し、その範囲内となっている。実際には、まとめて発注することで10%程度の費用を削減できている。

#### 質疑（石井一宏委員） 回答（事務局） 下水道工務課

Q. WPPPにおいて、どのように管路の性能発注を行っていく予定か。

A. 管路の性能発注における基準設定は国でも方向性が示されていないが、柏市モデルとして、現在の管路包括で定めている指標が国のWPPPガイドラインに示されている。WPPPでも現在の管路包括の指標をベースに設定する予定である。

質疑（堀田副会長）回答（事務局）下水道工務課

Q. 国の包括委託に関する委員会の委員をしている。包括委託が広まっていくべきであるが中々進んでこなかったのもので、ぜひ実施してほしい。上下水道で事業体が異なる場合が多く、上下水道一体のメリットを生み出すのが難しいことが多い。柏市で上下水道一体の発注をする中で工夫した点はどこか。

A. WPPP を実施するにあたって下水道のみで実施すると思っていたが、水道も同じ課題を抱えていたためスムーズに上下水道一体の検討が始められた。千葉県内の多くの自治体は、水道は県、下水は市町村と運営事業体が異なることが多いため、上下水道一体で行うことが難しいと考えられる。柏市においては、そのような課題もないため上下水道一体で行うことができる。

Q. WPPP と今回ビジョンで期間がずれているが問題ないか。

A. WPPP は 10 年と決まっているためである。前回の下水道事業中長期経営計画でも期間がずれていたが問題なく、連携は行っていく。

意見（堀田副会長）

WPPP の方がビジョンの計画期間を超えるため、ビジョンは長期的な視点も含めて作成いただきたい。

**報告事項（1）第三水源地給水区域で発生した水圧低下について**

意見（落合会長）

人為的ミスであるため、具体的な確認体制の強化等の方策はないか。二度と起こらないようにしてほしい。

**報告事項（2）柏まつりの出展について**

質疑なし

**報告事項（3）その他**

報告なし

**7 傍聴**

傍聴者なし